第71回 FTC研究会
於 東京

2014年7月17-19日

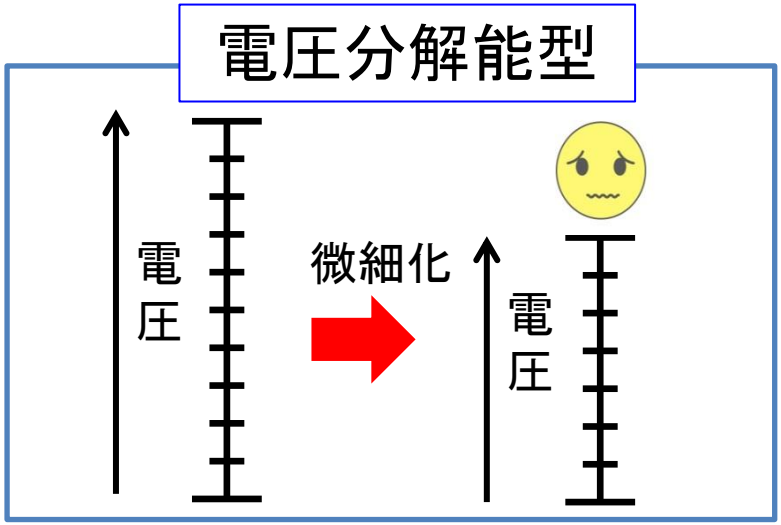
剰余系を用いた
タイミング測定用回路の検討

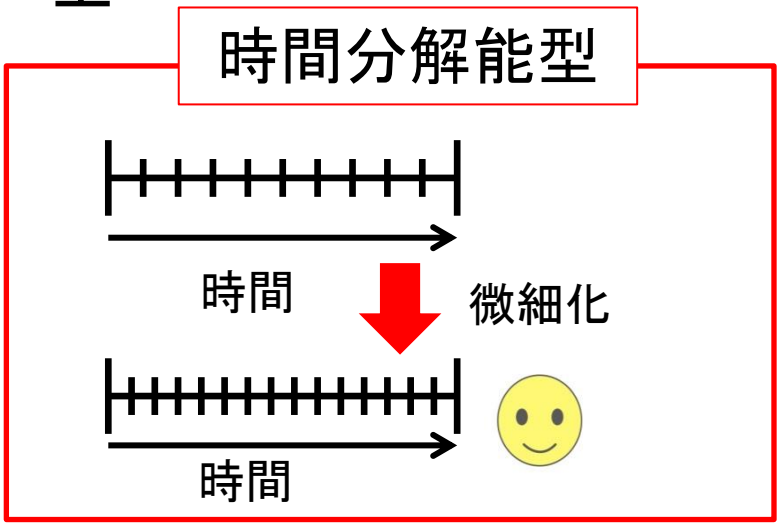
李从兵（群馬大学）　加藤健太郎（鶴岡高専）
王俊善　小林春夫（群馬大学）

Supported by STARC

研究背景

微細化CMOS LSI → 電源電圧の低下
動作スイッチングスピードの向上



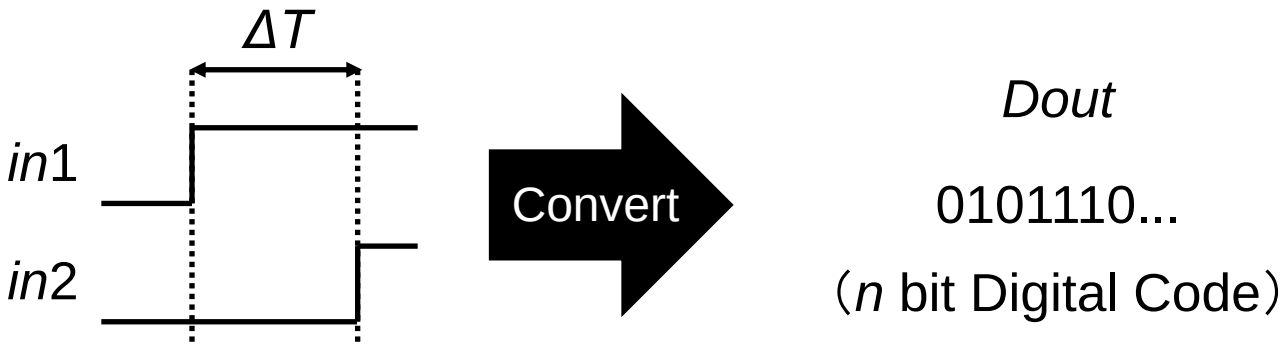


TDC（Time-to-Digital Converter）は2つのデジタル信号の時間差をデジタル値に変換

微細化CMOS LSIにおいて、TDCは時間領域アナログ回路のカギとなる

（センサ回路, All-Digital PLL,ADC,変調回路等）

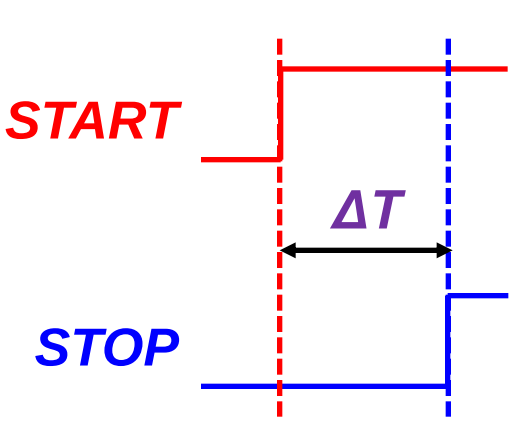
タイムデジタイザ回路

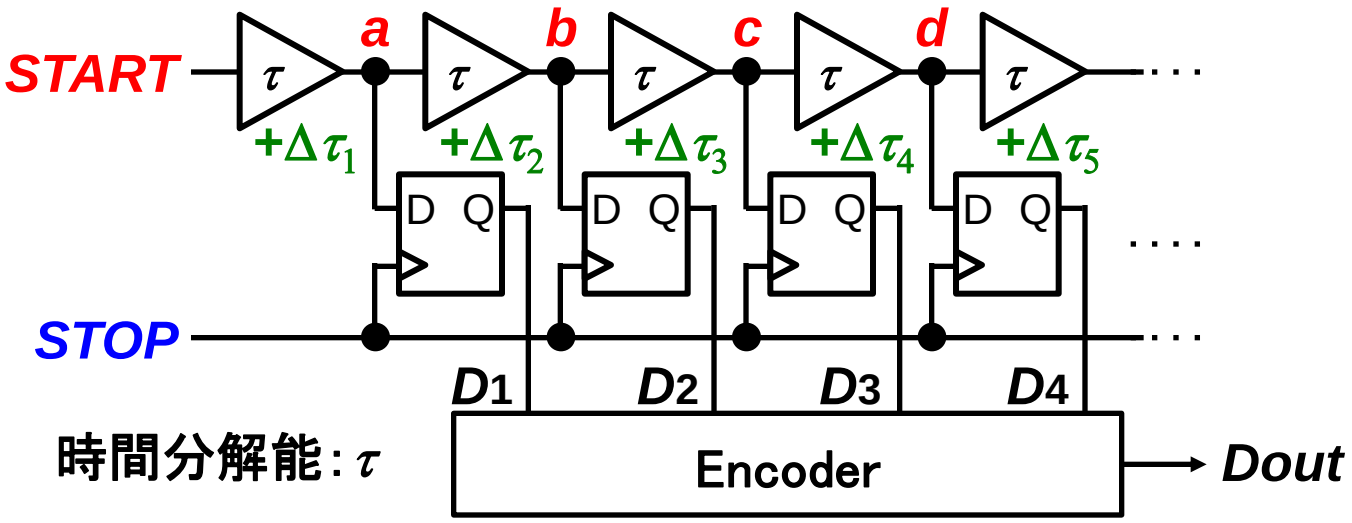


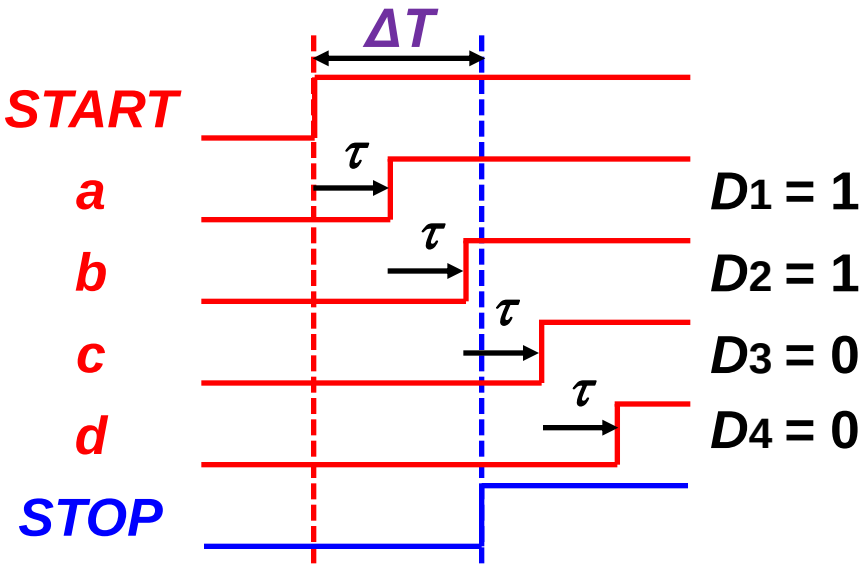
2つのディジタル信号間の時間差 ΔT をディジタル値に変換

出力のディジタル値より ΔT を測定可能

フラッシュ型 TDCの構成と動作







- ΔT の大きさに比例した
  デジタル値　Dout を出力
- 時間分解能　τ

高エネルギー加速器研究機構
素粒子原子核研究所
新井康夫氏による発明

フラッシュ型TDCの回路規模の問題

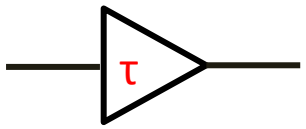
START とSTOP の立ち上がりエッジ間の時間差　ΔT

測定範囲　$0 < \Delta T < N\tau$

時間分解能　τ

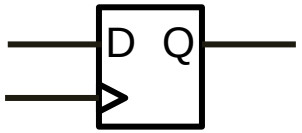
N = 1001 (千一)のとき　　フラッシュ型TDC では大きな回路規模、大きな消費電力

遅延セル



1001個

フリップフロップ



1001 個

提案する剰余系TDC　　1001= 7x11x13
同じ測定範囲、時間分解能で　7+11+13=31 個の
遅延セル、フリップフロップで実現できる

千一個から三十一個へ !!

研究の目的

時間測定回路TDC

- LSIテストシステムのキーコンポーネント
- 時間信号であることを利用

  → “剰余”が容易に得られる

- 剰余系を利用すると
  フラッシュ型TDCに比べ、同等性能で
  小回路規模・低消費電力TDCが
  実現できる可能性あり

↓

剰余系TDC回路を検討する

「孫子兵法（孫子算経）」と剰余系

中国の剰余定理（Chinese remainder theorem）は
算術書『孫子算経』に由来する
整数の剰余に関する定理。
孫子の定理とも呼ばれる。

『孫子算経』には
「3で割ると2余り、5で割ると3余り、7で割ると2余る数は何か」
という問題とその解法が書かれている。
中国の剰余定理は、この問題を他の整数についても
適用できるように一般化したもの。

剰余系の例

基数　2, 3, 5　互いに素

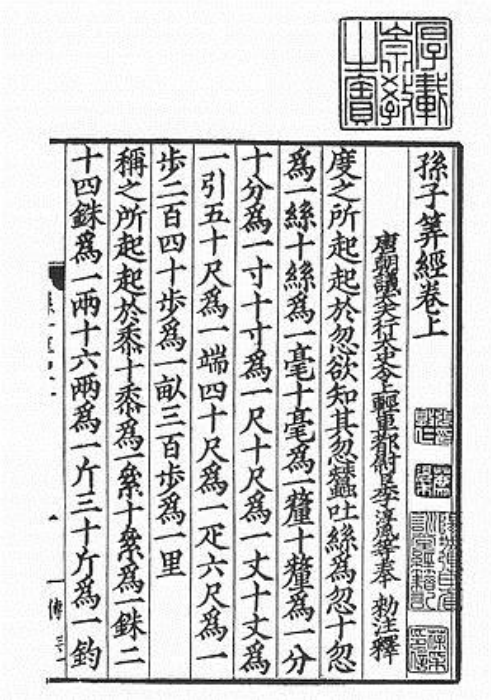
N=2x3x5 = 30

0からN-1(=29) までの整数の一つを k

a: kを2 で割った余り　　a= mod2 (k)

b: k を3で割った余り　　b= mod3(k)

c: k を5 で割った余り　　c= mod5(k)


孫子算經卷上

k と　(a, b, c) の組は1対1に対応する。

k を　(a, b, c) で表現 ⇒　剰余表現

中国人の剰余定理 (Chinese Remainder Theorem)

(a, b, c) から　k を求めるアルゴリズム

剰余系の例

基数 2, 3, 5 互いに素

N=2x3x5 = 30

0からN-1(=29) までの整数の一つを k

a: kを2 で割った余り　a= mod2 (k)

b: k を3で割った余り　b= mod3(k)

c: k を5 で割った余り　c= mod5(k)

k と (a, b, c) の組は1対1に対応する。

k を (a, b, c) で表現 ➡ 剰余表現

剰余定理 (Chinese Remainder Theorem)
(a, b, c) から k を求めるアルゴリズム

自然数 k と剰余表現 (m_1, m_2, m_3) は 1 対 1 対応

m_1	m_2	m_3	k
0	0	0	0
1	1	1	1
0	2	2	2
1	0	3	3
0	1	4	4
1	2	0	5
0	0	1	6
1	1	2	7
0	2	3	8
1	0	4	9
0	1	0	10
1	2	1	11
0	0	2	12
1	1	3	13
0	2	4	14

m_1	m_2	m_3	k
1	0	0	15
0	1	1	16
1	2	2	17
0	0	3	18
1	1	4	19
0	2	0	20
1	0	1	21
0	1	2	22
1	2	3	23
0	0	4	24
1	1	0	25
0	2	1	26
1	0	2	27
0	1	3	28
1	2	4	29

剰余定理は、
この問題を他の整数についても適用できるように一般化したもの。

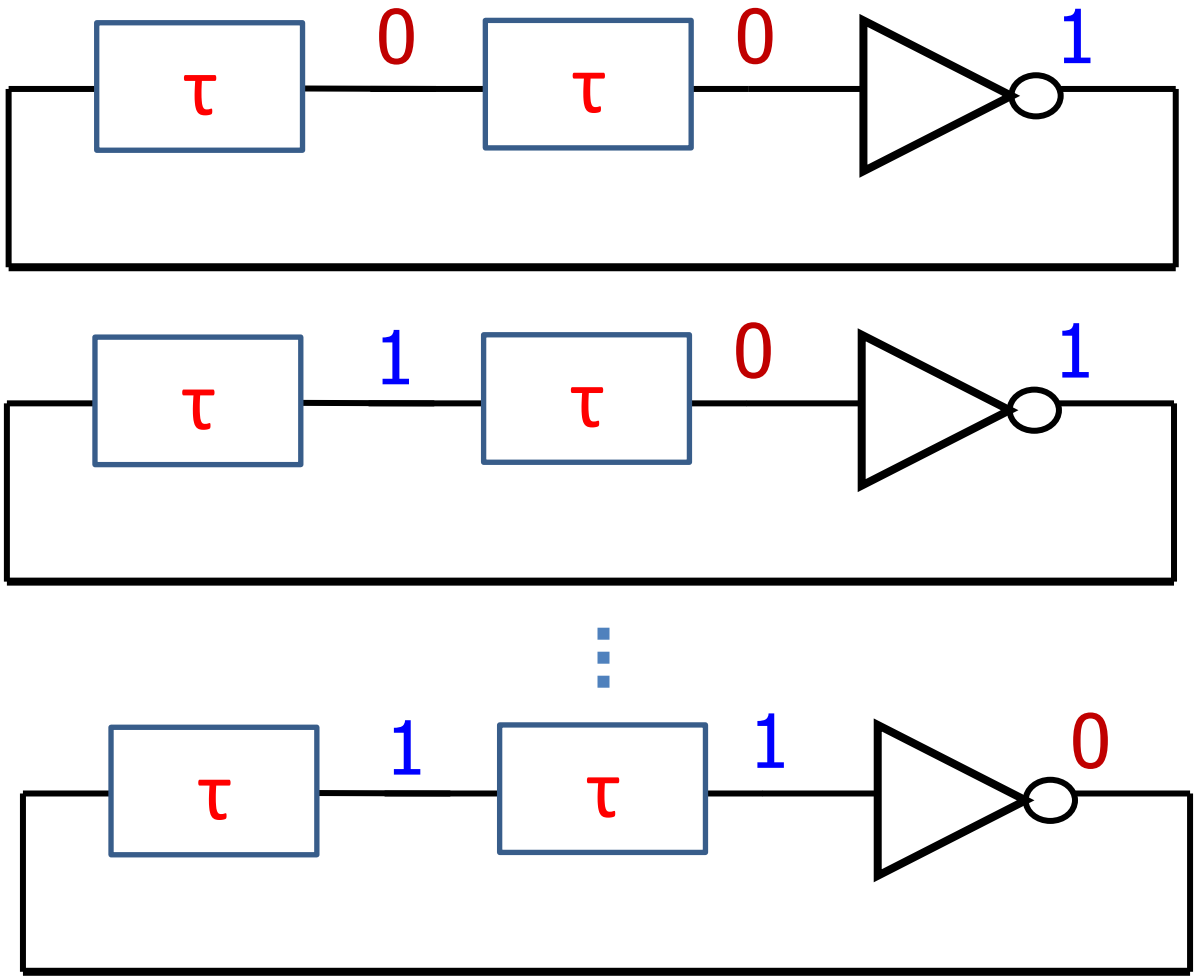
剰余系TDCの原理

三つのリング発振回路(遅延2τ，3τ，5τ)を利用し、
発振している状態から経過時間Tの測定を行う。

T を2τで割った余りはa
T を3τで割った余りはb ⇒ Kを計算する
T を5τで割った余りはc

$$T = k \times \tau$$

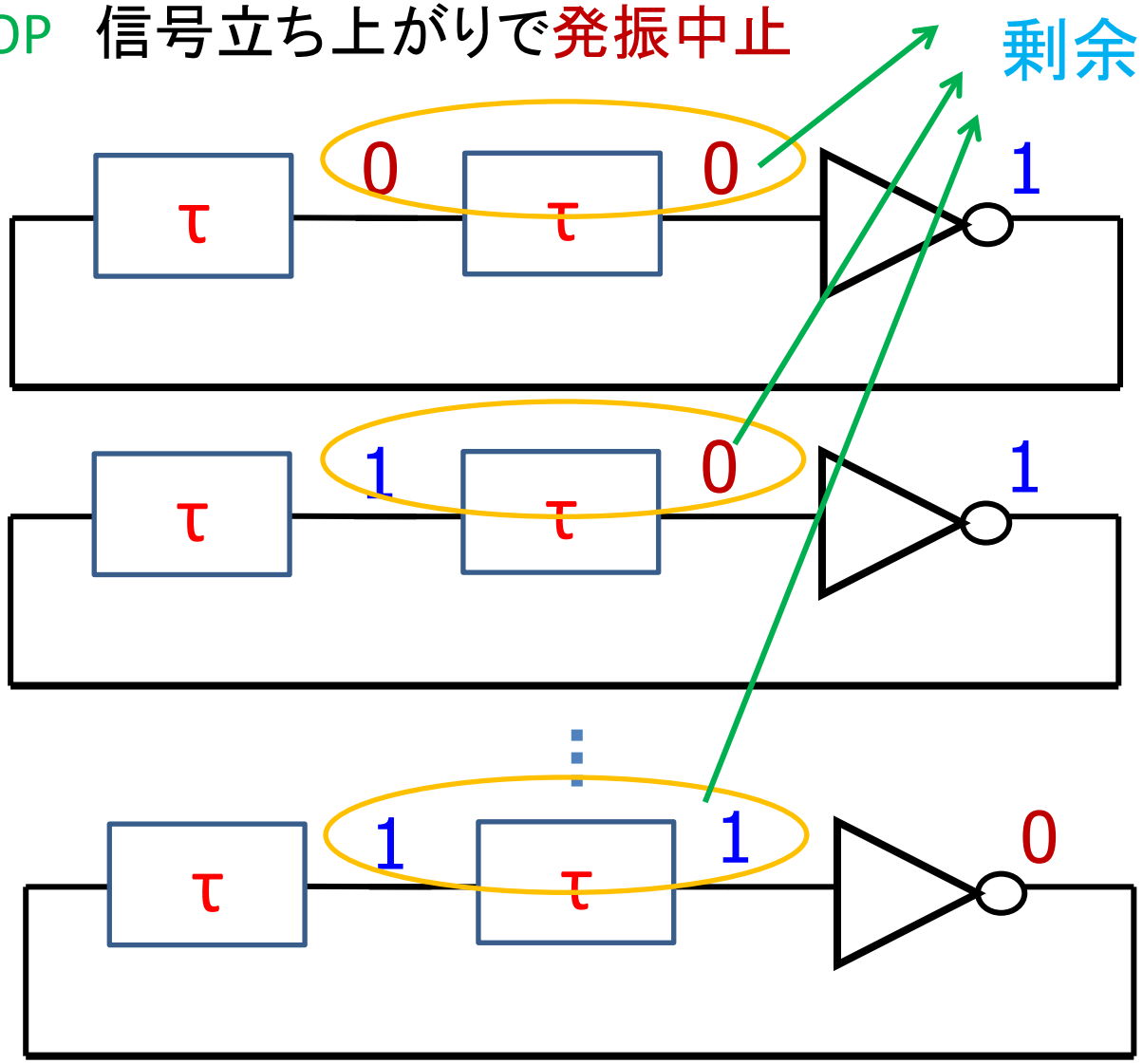
リング発振回路で剰余が容易に得られる



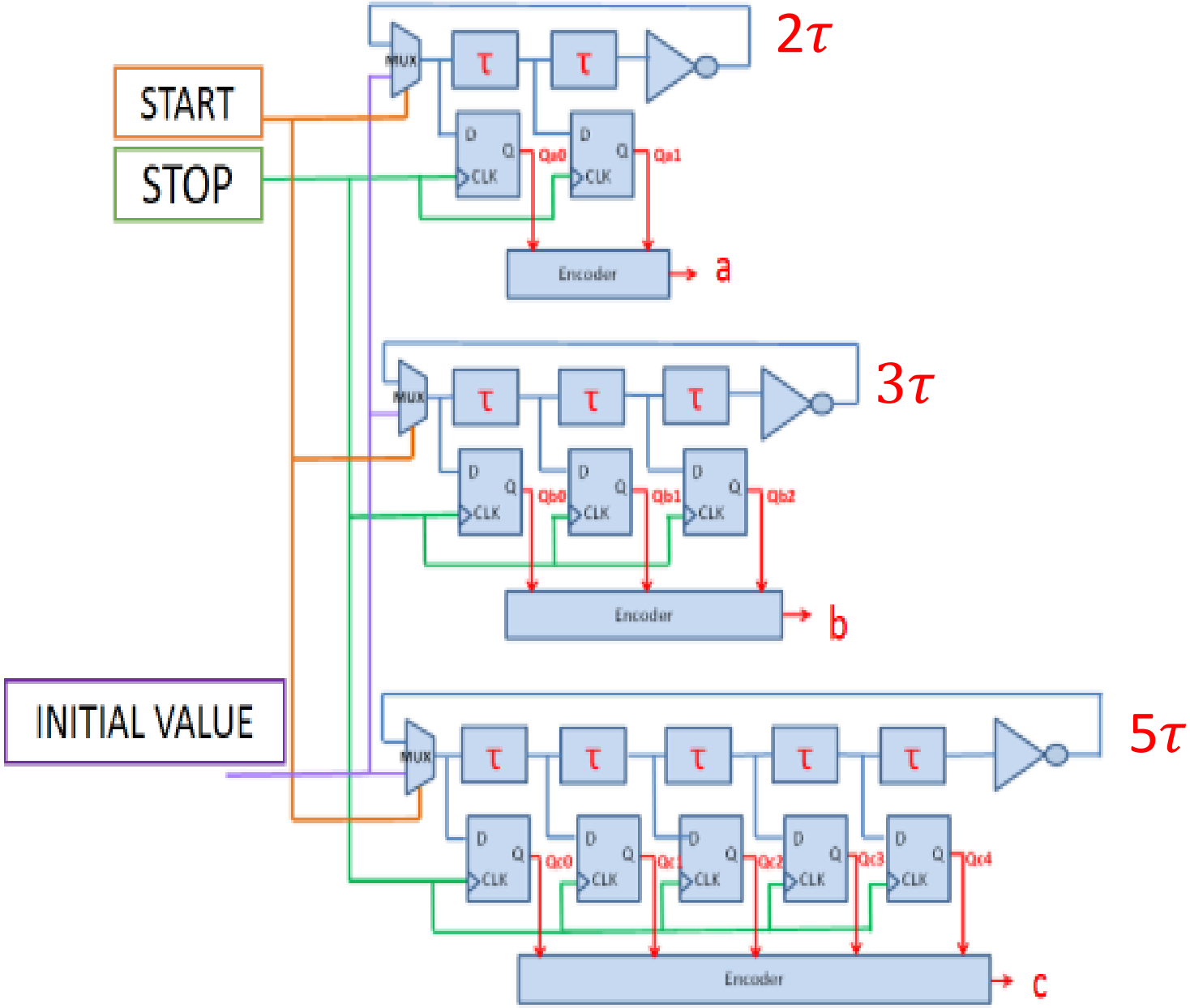
考察 TDCでは取り扱う入力信号が時間信号なので
リング発振回路構成により剰余が容易に得られる。
電圧信号を入力とするADCでは剰余を得るのは簡単ではない。

リング発振回路で剰余を得る

- START 信号立ち上がりで発振開始
- STOP　信号立ち上がりで発振中止



提案する剰余系TDCの回路図

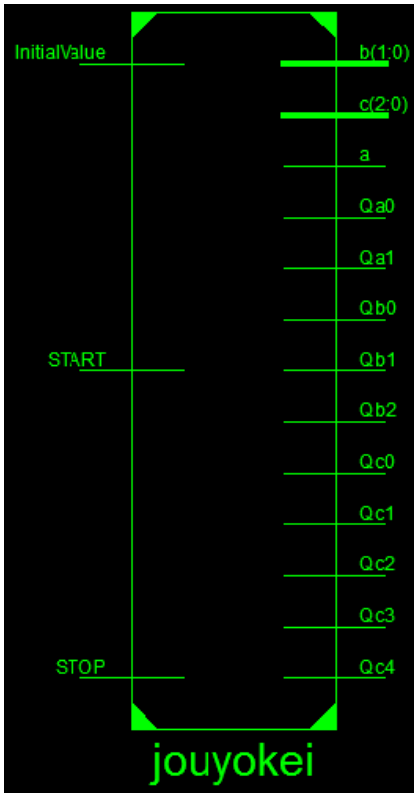


FPGA実装(1/4)

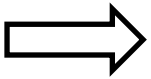
STOPポートの入力：100MHz FPGA クロック

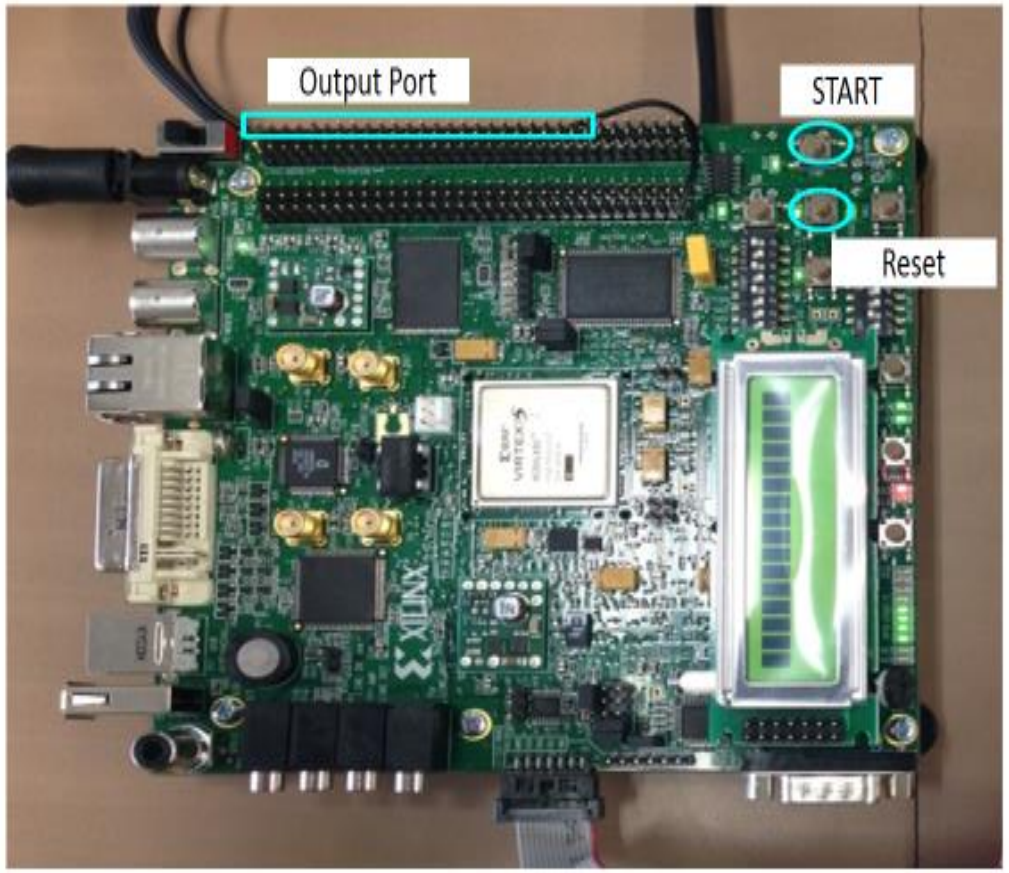
Buffer_CLKポートの入力：33MHz FPGA クロック（バッファの遅延 τ ＝30.30ns）

入力ポート　出力ポート



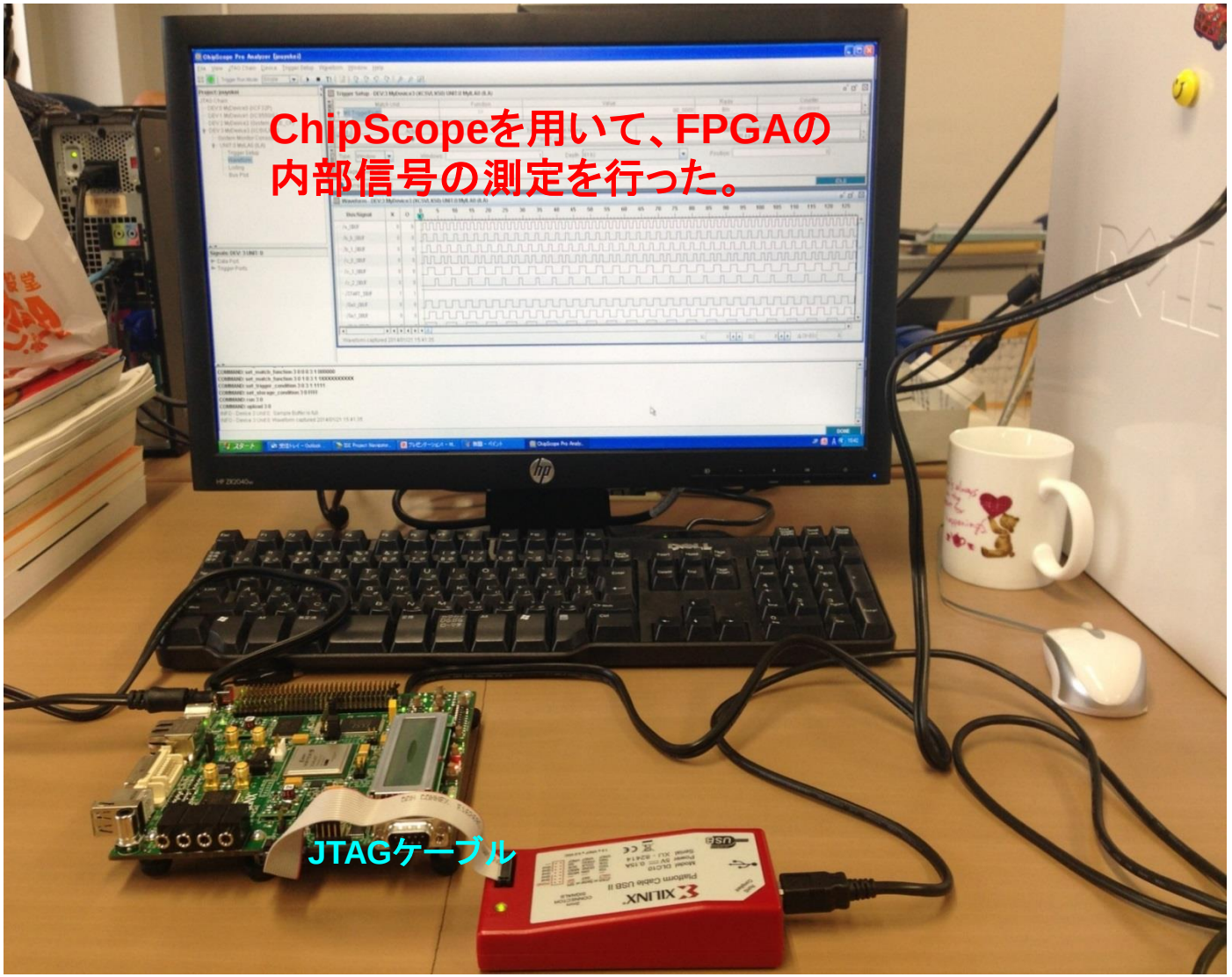
ピン配置制約





Xilinx社　Virtex5　XC5VLX50-FFG676

FPGA実装(2/4)



FPGA実装(3/5)

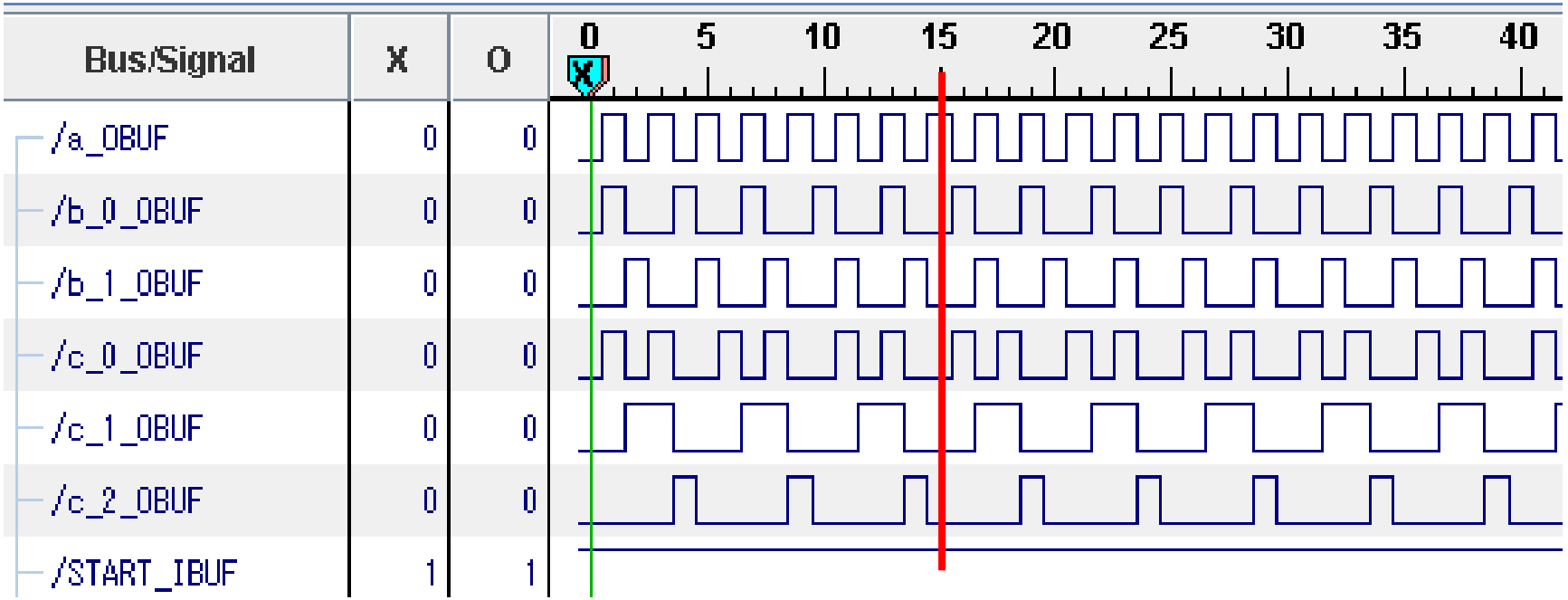
三つのTDC回路（遅延は2クロック周期、3クロック周期 、5クロック周期）を利用

T を2クロック周期で割った余りはa

T を3クロック周期で割った余りはb

T を5クロック周期で割った余りはc

⇒剰余定理で T = k X クロック周期



a	b[1]	b[0]	c[2]	c[1]	c[0]	k
1	0	0	0	0	0	15

FPGA実装(3/4)

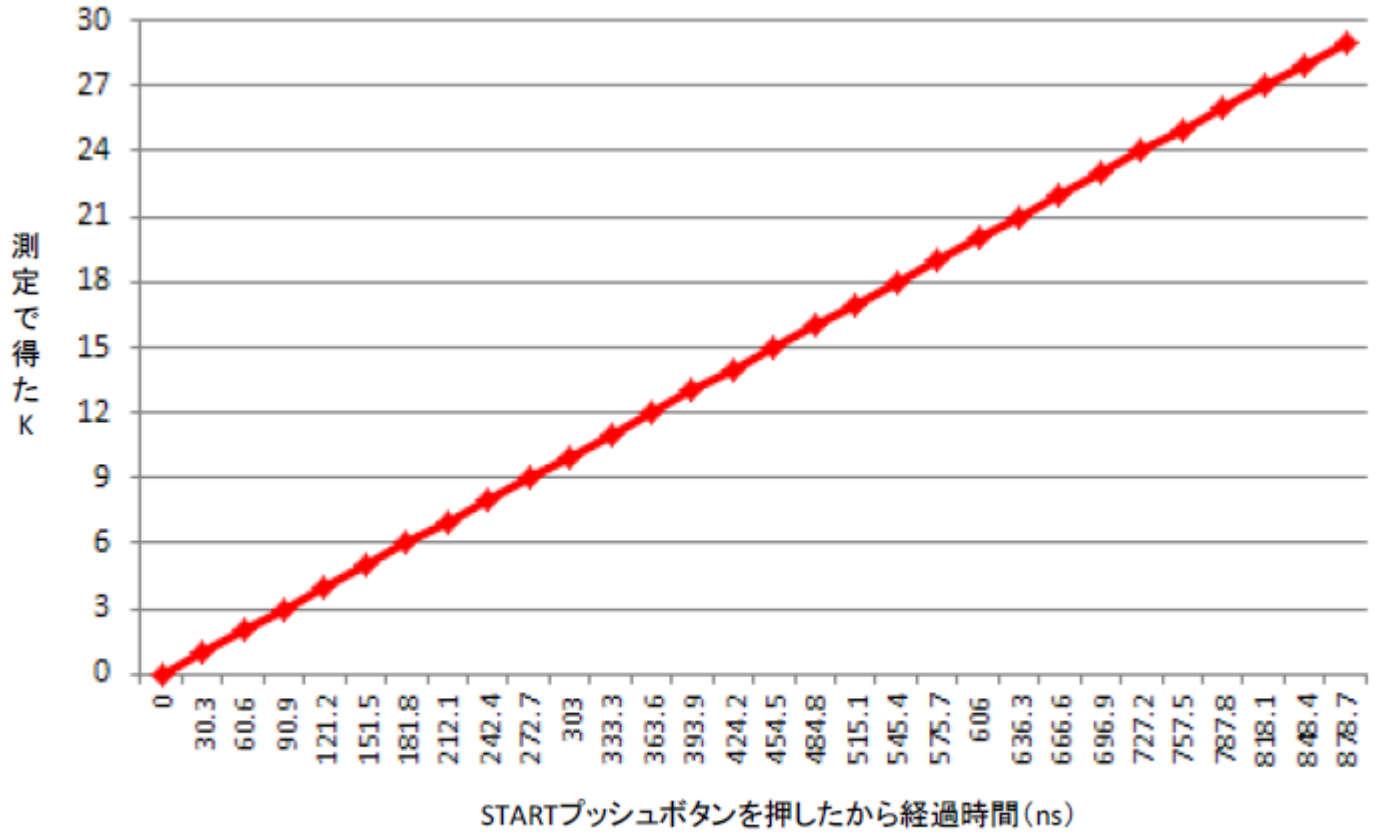
ASCII データ変換

START とSTOPの時間差
= k x バッファ遅延(30.30ns)

Sample in Window	Elapsed Time(ns)	a	b[0]	b[1]	c[0]	c[1]	c[2]	k
0	0.00	0	0	0	0	0	0	0
3	30.30	1	1	0	1	0	0	1
6	60.60	0	0	1	0	1	0	2
9	90.90	1	0	0	1	1	0	3
12	121.20	0	1	0	0	0	1	4
15	151.50	1	0	1	0	0	0	5
18	181.80	0	0	0	1	0	0	6
21	212.10	1	1	0	0	1	0	7
24	242.40	0	0	1	1	1	0	8
27	272.70	1	0	0	0	0	1	9
30	303.00	0	1	0	0	0	0	10
33	333.30	1	0	1	1	0	0	11
36	363.60	0	0	0	0	1	0	12

FPGA実装(4/4)

剰余系TDC回路はFPGAで実現できることが示された。



経過時間 VS. 測定で得たk

まとめと今後の課題

- 提案剰余系TDC回路は時間測定が可能であることを確認し、
  FPGA で実現できることを示した。
- バッファの個数とリング発振回路の個数を増減すると、
  提案TDC 回路は他の剰余数系にも適用できる。
  他の剰余数系のTDC 回路もFPGA で実現可能である。
- 提案TDC回路で、使用した遅延バッファとフリップフロップの数は10 個。
  同等性能フラッシュ型TDC 回路では、29 個である。
  剰余系を利用したTDC 回路は、回路面積、消費電力が低減できる。
- 今後の課題：
  三つのチャネルTDC 間の特性ばらつきの影響の検討
  - 大きな誤差を生じる可能性があるかどうか、
  - 冗長構成で対応可能かどうか

BOST，FPGA へのコメント

一般論として、現状産業界では

- アナログBISTは実用化が限定。
- アナログBOST は現実的選択。

Analog BIST or BOST ?
That is the question.

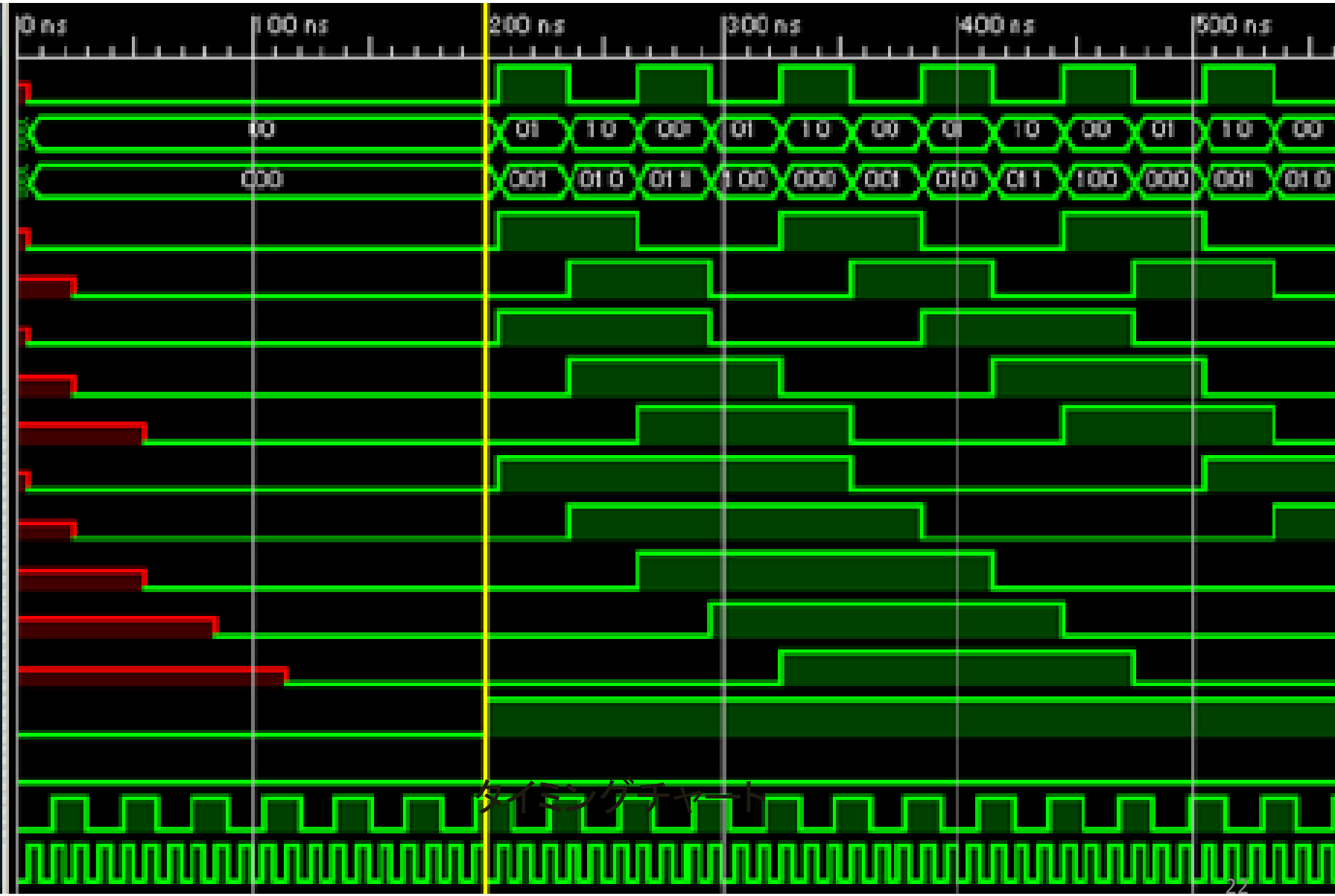
Hamlet

集積回路分野の研究者
フルカスタムIC重視、(アナログ)FPGAに関心少ない傾向

(アナログ)FPGAは 「破壊的イノベーション」になる(?)

ご清聴ありがとうございます

RTL検証(1/2)



RTL検証(2/2)

STOP 信号の値(ns)	発振から経過時間	a	b	c	計算した k
200	0 x 30.30ns	0	00	000	0
230.30	1 x 30.30ns	1	01	001	1
260.60	2 x 30.30ns	0	10	010	2
290.90	3 x 30.30ns	1	00	011	3
321.20	4 x 30.30ns	0	01	100	4
351.50	5 x 30.30ns	1	10	000	5
381.80	6 x 30.30ns	0	00	001	6
412.10	7 x 30.30ns	1	01	010	7
442.40	8 x 30.30ns	0	10	011	8
472.70	9 x 30.30ns	1	00	100	9
503.00	10 x 30.30ns	0	01	000	10
533.30	11 x 30.30ns	1	10	001	11
563.60	12 x 30.30ns	0	00	010	12
593.90	13 x 30.30ns	1	01	011	13
624.20	14 x 30.30ns	0	10	100	14
654.50	15 x 30.30ns	1	00	000	15
684.80	16 x 30.30ns	0	01	001	16
715.10	17 x 30.30ns	1	10	010	17
745.40	18 x 30.30ns	0	00	011	18
775.70	19 x 30.30ns	1	01	100	19
806.00	20 x 30.30ns	0	10	000	20
836.30	21 x 30.30ns	1	00	001	21
866.60	22 x 30.30ns	0	01	010	22
896.90	23 x 30.30ns	1	10	011	23
927.20	24 x 30.30ns	0	00	100	24
957.50	25 x 30.30ns	1	01	000	25
987.80	26 x 30.30ns	0	10	001	26
1018.10	27 x 30.30ns	1	00	010	27
1048.40	28 x 30.30ns	0	01	011	28
1078.70	29 x 30.30ns	1	10	100	29